

富山県と石川県におけるイチモンジハムシ（ハムシ科、ヒゲナガハムシ亜科）の生息現況

鈴木邦雄¹⁾・野村孝昭²⁾

¹⁾ 〒 939-0364 射水市南太閤山 14-35 (kunimushi@shore.ocn.ne.jp)

²⁾ 〒 939-8184 富山市二俣新町 150 (amica-3-takaaki-3333@alto.ocn.ne.jp)

Present Geographical Distribution of *Morphosphaera japonica* (Hornstedt, 1788) (Chrysomelidae, Galerucinae) in Toyama and Ishikawa Prefectures, Chūbu District, Honshu, Japan

Kunio SUZUKI¹⁾ and Takaaki NOMURA²⁾

¹⁾ 14-35 Minami-Taikōyama, Imizu-shi, Toyama, 939-0364 Japan

²⁾ 150 Futamata-Shinmachi, Toyama-shi, Toyama, 939-8184 Japan

イチモンジハムシ *Morphosphaera japonica* (Hornstedt, 1788) は、ハムシ科 Chrysomelidae, ヒゲナガハムシ亜科 Galerucinae に属し、日本では本州・四国・九州および壱岐・対馬・甕島・トカラ列島などに、国外ではシベリア東部・中国・インドなどに分布する (木元, 1994)。寄主植物としては、イチジク属 *Ficus* (クワ科 Moraceae) のイタビカズラ *F. nipponica* Franch. et Sav.・イヌビワ (イタビ) *F. erecta* Thunb. var. *erecta*・オオバアコウ *F. caulocarpa* (Miq.) Miq.・オオイタビ *F. pumila* L.・ヒメイタビ *F. thunbergii* Maxim. などが知られている (Chūjō & Kimoto, 1961; 木元, 1994)。滝沢 (2011) は、「最近は分布を広げているようで、東京都内の植栽にもみられるという」と記しているが、その情報源は明記していない。

本種は、富山県下からは田中 (1956) による 60 年以上前の富山市呉羽丘陵からの記録があるのみ (富山県昆虫研究会編, 1979) であり、石川県においてもごく近年の八神 (2011) による加賀市からの報告が唯一であると思われる、両県における生息状況はほとんど不明であった。野村は 2016～17 年に高岡市と氷見市で本種の生息を確認し、鈴木は 2018 年 5～7 月に富山県氷見市から石川県七尾市にかけての富山湾沿岸地域一帯を繰り返し調査し、新たな生息地を 10ヶ所発見することができた。本稿では、これまでに得られた知見をまとめて報告する。

本種の富山県における唯一の既産地である呉羽丘陵は、県中央部をほぼ南北に流れる神通川西岸に沿って約 5 km 内陸から南西に約 7 km 連なっている。当該標本は、報告者の田中忠次氏のコレク



図1. イタビカズラ上のイチモンジハムシ♀。富山県氷見市阿尾 (阿尾城跡)。2018年5月6日。図2. イタビカズラ。氷見市宇波。2018年6月22日。図3. 富山・石川県産のイチモンジハムシ。左上: ♂最小個体 (石川県七尾市虫崎。7月13日), 右上: ♂最大個体 (氷見市大境。5月11日), 左下: ♀最小個体 (氷見市姿。6月22日), 右下: ♀最大個体 (氷見市阿尾。5月5日)。いずれも2018年鈴木採集。スケール: 5.0 mm。

表1. イチモンジハムシの富山県と石川県における既知産地 (■) と新産地 (●) . A, B, 1~10の記号と番号は、図4のそれらと対応する. 採集者 - TN: 野村; KS: 鈴木.

富山県

既知産地

A 富山市呉羽丘陵 (36°41'~43'N/137°09'~12'E): 14-V. (採集年不明), 斎藤 [外司三] 採集 (田中, 1956).

新産地

- 1 氷見市中波 (火神社) (36° 57'N/137° 02'E): 2♂♂, 11-V-2018, KS.
- 2 氷見市姿 (白山社) (36° 56'N/137° 02'E): 4♂♂5♀♀, 15-V-2018, KS; 1♂2♀♀, 22-VI-2018, KS.
- 3 氷見市大境 (36° 55'N/137° 02'E): 11♂♂7♀♀, 11-V-2018, KS; 14♂♂12♀♀, 15-V-2018, KS; 9♂♂7♀♀, 22-V-2018, KS; 7♂♂4♀♀, 2-VI-2018, KS; 6♂♂4♀♀, 17-VI-2018, KS; 1♂, 13-VII-2018, KS.
- 4 氷見市宇波 (宇波神社) (36°55'N/137° 01'E): 6♂♂9♀♀, 18-VI-2018, KS; 3♂♂1♀, 22-VI-2018, KS.
- 5 氷見市阿尾 (阿尾城跡) (36° 53'N/136° 59'E): 2♂♂1♀, 20-V-2016, TN; 1♂1♀, 4-V-2017, TN; 6♂♂2♀♀, 5-V-2018, KS; 7♂♂5♀♀, 6-V-2018, KS; 3♂♂3♀♀, 11-V-2018, KS; 10♂♂4♀♀, 15-V-2018, KS; 9♂♂7♀♀, 22-V-2018, KS; 1♀, 2-VI-2018, KS.
- 6 高岡市守山 (二上山山麓) (36° 47'N/137° 00'E): 1♀, 7-VII-2017, TN.

石川県

既知産地

B 加賀市大聖寺錦城山 (36° 18'N/136° 18'E): 1 ex., 24-I-2010 (タブノキの倒木樹皮下で越冬中), 八神徳彦採集 (八神, 2011)

新産地

- 7 七尾市大田町赤崎 (37° 03'N/137° 00'E): 2♂♂1♀, 10-VII-2018, KS; 1♂, 13-VII-2018, KS.
- 8 七尾市佐々波町虫崎 (37° 01'N/137° 03'E): 5♂♂2♀♀, 10-VII-2018, KS; 3♂♂2♀♀, 13-VII-2018, KS.
- 9 七尾市佐々波町上佐々波 (37° 00'N/137° 03'E): 1♀, 10-VII-2018, KS.
- 10 七尾市大泊町 (南住 (なずみ) 神社) (36° 58'N/137° 01'E): 6♂♂5♀♀, 22-VI-2018, KS; 1♂1♀, 10-VII-2018, KS; 1♀, 13-VII-2018, KS.

シオンを収蔵している富山市科学博物館では発見できず、報告から62年が経過しており、具体的な生息場所を特定することもできなかった。呉羽丘陵ではイタビカズラの生育地は、現時点で1ヶ所のみ確認できたが、本種の生息は確認できなかった。今回報告する富山県下の新産地6ヶ所のうち、高岡市守山は、富山湾西南部の同市北端部の海岸近くから南西方向に約5 km連なる二上山系のほぼ南西端の内陸部に位置する。野村は、同山系山麓部の車道沿いのスウィーピングで1♀を得たが、近辺ではイタビカズラを確認することはできなかった。鈴木は、野村の採集した場所より約1 km東に位置する射水 (いみず) 神社の境内でイタビカズラの生育を確認したが、本種を発見することはできなかった。鈴木は、氷見市阿尾 (阿尾城跡) における野村の観察結果を踏まえて、同所の、特に海に面した崖の斜面に生育している高樹齢のエノキやミズキなどの幹に絡み付いて生育しているイタビカズラ上での生息状況と富山湾沿岸部では対馬暖流の影響で多くの暖地性植物の生育が確認されていることから、富山県氷見市阿尾付近から石川県七尾市に至る富山湾西部沿岸地域の平地~丘陵地の社寺林に焦点を絞って調査したところ、イタビカズラは各所に普遍的に生育しており、本種もかなり普遍的に生息していることを明らかにすることができた。七尾市大田町の生息地では、海岸沿いの県道沿いの低丘陵地末端の林縁部に生育しているイタビカズラより採集した。七尾湾にある能登島は、現在橋によって2ヶ所で本土と繋がっているが、その距離はわずかに0.5~1.0 km程度に

過ぎない。そこで、7月13日、同島の東半部の海岸線一帯を調査し、10ヶ所以上でイタビカズラの小群落を発見したが、本種はまったく発見出来なかった。断定はできないが、氷見市から七尾市にかけての生息状況を踏まえると、同島には少なくとも現時点では生息していない可能性が高いのではないかと推測される。また、富山湾東部の、特に自然照葉樹林の北東限に位置する朝日町宮崎の鹿島樹叢や朝日県立自然公園一帯でも調査したが、イタビカズラの生育は確認できたもののこれまでのところ本種を発見するには至っていない。2018年の調査で比較的多くの個体を採集できた氷見市の宇波および大境の生息地を8月19日に調査したが、まったく採集することはできなかった。

表1に、富山県と石川県における本種の産地を示した。富山・石川・福井3県下からのほとんどの記録は、富山湾と日本海の沿岸地帯からのものである。福井県北部から能登半島全域を含めた石川県と富山県においても、富山湾と日本海の沿岸地域の各地に生息地が存在するのではないかと推測される。

イチモンジハムシの近隣県における分布状況と寄主植物など

富山県と石川県の近隣県における本種の分布記録を、南雅之氏の協力も得て渉猟した。新潟・長野・岐阜3県からは、これまでのところまったく報告がないと思われる。福井県からは、約10ヶ所から報告がある (佐々治・斎藤, 1985; 佐々治ほか, 1998; 井上, 1999; 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002) . 佐々治ほか (1998) や井上 (1999) や福井県福祉環



図4. 富山・石川両県における
イチモンジハムシの産
地. ■: 既産地, ●: 新産
地.

境部自然保護課編 (2002) には、南条市が本種の「北東限」との記述も見られるが、田中 (1956) の富山市呉羽丘陵における記録やそれを引用している富山県昆虫研究会編 (1979) などを見落としていたものと推測される。福井県福祉環境部自然保護課編 (2002) には、同県の昆虫類全 7,862 種中、絶滅のおそれのある種として独自に設定された 5 カテゴリー (絶滅・絶滅危惧Ⅰ類・絶滅危惧Ⅱ類・準絶滅危惧・要注目) にランクづけされた総計 182 種が挙げられているが、ハムシ科では、唯一本種が「要注目」カテゴリーに属する種に挙げられている。

本種は、成虫越冬することが知られている (滝沢, 1994, 2011; 八神, 2011)。滝沢 (1994) は、「神奈川の低地では 5 月中旬に産卵し、約 1 ヶ月で老熟した」と記している。水見市域内において筆者らが 5 月上旬から 6 月にかけて採集した個体は、大部分が越冬個体であったものと推定されるが、2017 年 7 月 7 日に高岡市守山で、2018 年 6 月 22 日に石川県七

尾市大泊で採集した個体はほとんどが羽化直後のテネラルな状態のものであった。なお、筆者らは、野外調査において本種の幼虫は一度も確認できなかった。また、富山・石川両県より得られた本種の個体は、体色などにはほとんど目立った変異は認められないが、体サイズにはかなりの変異が認められ、鈴木 の採集した全個体中の♂の最小個体は体長約 6.0 mm、♀の最大個体は約 9.7 mm であった (図 3)。

イチモンジハムシは、富山県においてはイタビカズラ以外からは発見されていない。寄主として記録のある他種のうちいくつかは富山県下にも生息しているが、本種の寄生はこれまでのところ確認されていない。今後、これまでに寄主として記録のある他のイチジク属植物の県下における生育分布状況にも注意を払いたい。

謝辞

本種の中中部地方における分布に関する文献記録

などの調査にご協力いただいた南雅之氏（東京）、富山県内におけるイタビカズラなどの生息状況について種々情報をいただき調査にもご助力いただいた富山大学大学院在学の早瀬裕也氏と姫野諒太郎氏、一部の文献の入手にご協力いただいた富山県科学博物館の岩田朋文氏に深謝する。

引用文献

- 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002. 『福井県の絶滅のおそれのある野生動物(福井県レッドデータブック(動物編))』(口絵62葉+本文243頁):115-210頁[概説:佐々治寛之; 116-117頁, 118-210:各種解説].
- 井上重紀, 1999. イチモンジハムシ *Morphosphaera japonica* (Hornstedt). 福井県自然環境調査研究会監修『福井県のすぐれた自然 動物編』(452 pp.; 昆虫類: pp. 162-452): 321. 福井県県民生活部自然保護課.
- 木元新作, 1994. 成虫篇. 木元新作・滝沢春雄『日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(xvii + 539 pp.): 1-364. 東海大学出版会, 東京.
- 佐々治寛之・斉藤昌弘, 1985. 甲虫目. 福井県自然環境保全調査研究会編『福井県昆虫目録』(404 pp.): 79-245, Pls.

- 2-3. 福井県. [ハムシ科: 207-221.]
- 佐々治寛之・斉藤昌弘・酒井哲弥・井上重紀・陶山治宏, 1998. コウチュウ目. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編『福井県昆虫目録(第2版)』(556 pp.): 99-311. [ハムシ科: 250-268; 本種に関しては p. 261 に既産地(南条町: 杣山; 敦賀市: 中池見; 三方町: 烏辺島, 御神島; 小浜市: 蒼島; 高浜町: 音海)と文献が列挙されている]
- 滝沢春雄, 1997. 幼虫篇. 木元新作・滝沢春雄『台湾産ハムシ類幼虫・成虫分類図説』(xvii + 581 pp.): 429-558. 東海大学出版会, 東京.
- 滝沢春雄, 2011. 日本産ハムシ科生態覚書(5). 神奈川虫報, (173): 35-51.
- 田中忠次, 1956. 富山県未記録の甲虫. *Neozephyrus* (富山県昆虫同好会インセクタ. アンテナ会々誌), 3: 1-17. [ナンバリングされた全166種のうちハムシ科は19-54の36種. その47に本種が挙げられ, 「呉羽山(V-14 斉藤)」とのみ記録されている. 採集年は不明. 採集者は, 斉藤外司三.]
- 富山県昆虫研究会編, 1979. 『富山県の昆虫』. 5 図版 + 1 + 545 pp. 富山県. [本種に関しては, 田中(1956)の呉羽山からの記録のみが引用されている]
- 八神徳彦, 2011. イチモンジハムシの記録. とっくりばち(石川むしの会誌), (79): 37.

(2018年9月14日受領, 2018年12月10日受理)

【短報】下甌島のマルチビゴミムシダマシ

マルチビゴミムシダマシ *Caedius marinus* Marseul, 1976 (ゴミムシダマシ科) は, 北海道, 本州, 佐渡, 四国, 九州, 平戸島, 五島列島, 天草島, 種子島, 朝鮮半島に分布することが知られている(秋田・益本, 2106). しかし, 甌島列島からは未記録である.

筆者の一人, 内藤は, 2018年に下甌島を訪れ, 青瀬海岸に注ぐ小さな川の河口近くの砂浜で, 草の根元の砂中から本種を採集することができたので, 報告する.

18 個体, 鹿児島県薩摩川内市下甌町青瀬 青瀬海岸砂浜, 13. IV. 2018, 内藤採集, 秋田同定.

得られた標本のうち, 15 頭は内藤が, 3 頭は秋田が保管している.

引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄, 2016, 日本産ゴミムシダマシ大図鑑, むし社, 東京, 302 pp., 107 pls.

(内藤準哉 260-0001 千葉市中央区都町 1-48-16)
(秋田勝己 514-1136 津市久居東鷹跡町 170-2)



図1. 下甌島のマルチビゴミムシダマシ.

【訂正】「大東諸島初記録となるヒゲトテントウダマシの採集」の訂正

筆者らは, さやばねニューシリーズ31号(2018年)において, ヒゲトテントウダマシ *Trochoideus desjardinsi* Guérin-Ménéville は南大東島から記録がなかったとしているが, 高野(2017)においてすでに初記録が報告されていた. 過去の記録の見落としがあったことをお詫び申し上げる.

文献の記録についてご教示いただいた渡部晃平氏にお礼申し上げます.

引用文献

- 高橋直也, 2017. 南大東島における甲虫2種の記録. 月刊むし, (556): 57.
- 矢代敏久・矢代亜由美, 2018. 大東諸島初記録となるヒゲトテントウダマシの採集. さやばねニューシリーズ, (31): 6.

(矢代敏久・矢代亜由美)